

おんた 小鹿田焼

1996
作品ナンバー0480

文部省特選 1997年教育映像祭優秀作品賞 第1回 JPPA AWARDS
'97音響技術プログラムⅡ金賞・ミクサー部門グランプリ

大分県日田市皿山（さらやま）地区で300年にわたり焼造されてきた小鹿田焼（おんたやき）。

すべて地元産の原料を使い、原料の製造・加工および作品の製造にも伝統的な用具を用いる。伝統的・地域的な特色が純粹で、顕著に残っている陶芸技法を記録した。



小鹿田焼は、1995年5月、国の重要無形文化財に指定された。その指定は、個人でなく集落の人たちがまとまっての集団指定である。映画は、大分県日田の山間の集落にある小鹿田焼の伝統技法を記録。その技法の主な特色は、以下のようになる。

①陶土は、小鹿田皿山で採取された原土を唐臼で粉碎し、手作業で水簸（すいひ）・乾燥させたもの。これは窯元の女性たちの仕事である。

②成形は、朝鮮系の蹴ロクロで、小物はひき造り・玉造りで作り、大物は底打ち・練付・腰継ぎの技法がある。ロクロのある車座は男の仕事である。

③模様付けは、伝承された刷毛目・飛び匏（かんな）・櫛目・指描き・打掛け・流しぐすりなどの装飾の技法がある。なかでも、刷毛目・櫛目は朝鮮李朝中期の技法で、飛び匏は中国の宋時代の磁州窯にあった技法である。

④釉薬（ゆうやく）は、フラシ釉（透明釉）・地釉（飴釉）・セイジ（緑釉）・籾セイジ・黒釉・ドーケとし、原料は、木灰・藁灰（わらはい）・長石・サビ石・銅とする。調整は伝承された方法により、施釉は、生掛けを基本にしている。

⑤共同窯は8室からなる連房式登り窯で、窯焚き（焼成）は、火口焚き（前焚き・あぶり焚き）・露焚き・あんこ焚きに伝承された登り窯の焚き方である。

⑥その完成作品は、民芸陶器として重厚で、素朴で温かみがあり、土味を生かした伝統的な作調には小鹿田焼の特色がよく保持されている。

記録
フィルム
カラー／34分
日・英語版

■企画
文化庁
■協力
日田市教育委員会
大分県立芸術会館
（財）日本民藝館
小鹿田焼技術保存会
寺川泰郎

スタッフ

■製作
村山和雄
■脚本・演出
村山正実
■撮影
西山東男
■撮影助手
木村光男
■照明
森 準蔵
■録音
堀内戦治
■効果
柴崎憲治
■編集
吉田栄子
■ネガ編集
加納宗子
■選曲
山崎 宏
■現像
IMAGICA
■ナレーター
相川 浩